

4

みんなのしごと

(1) やくそくや きまりを まもって

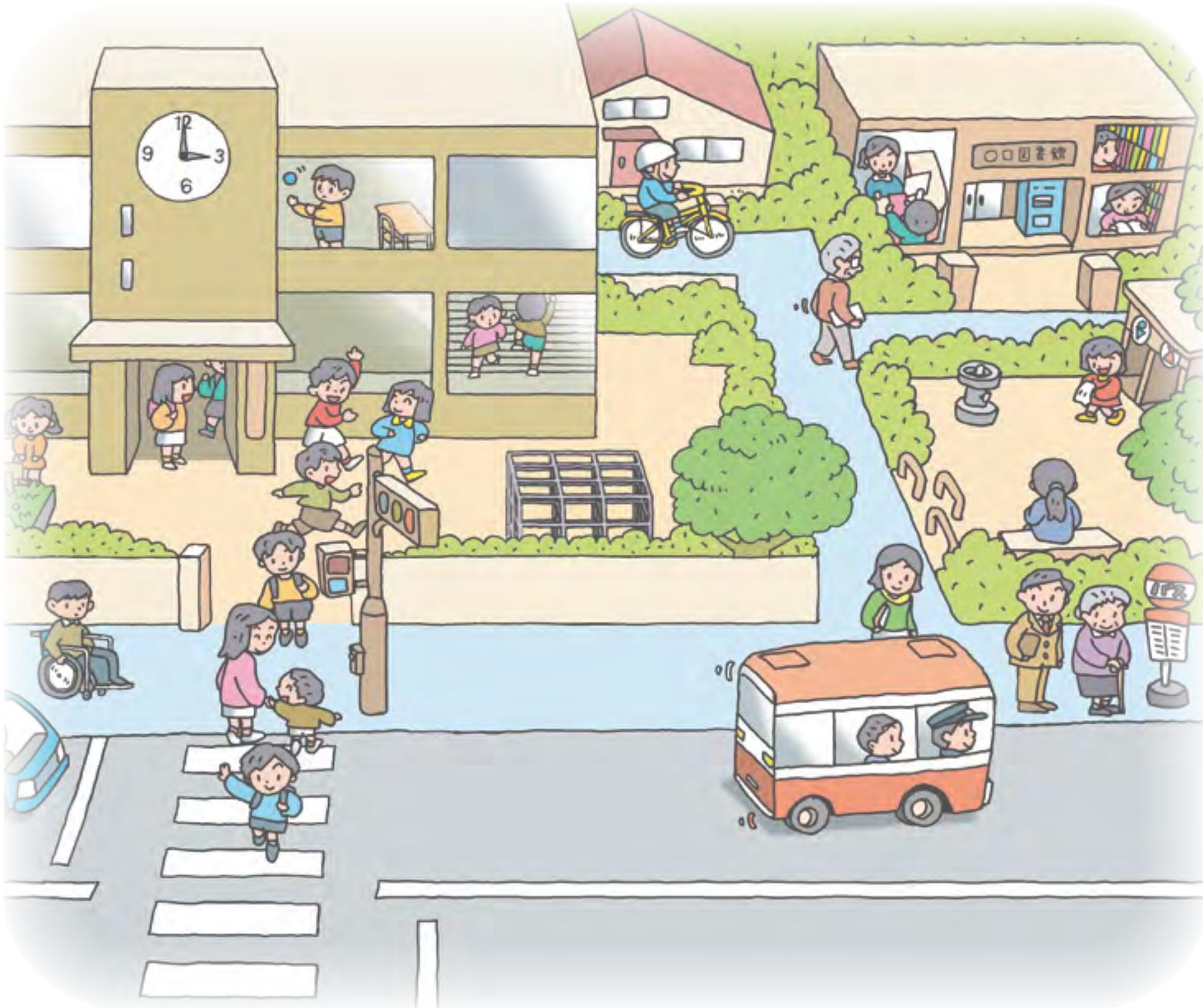
(2) はたらくことのよさを かんじて

(3) 家族の やくに 立つ ことを

(4) 学校の 生活を 楽しく

(5) ふるよとに 親しみを もって

もし きまりが なかったら どう なるかを、 みんなで 話し合(はな)いましょう。



みんなの 町(まち)だから、みんなで しつこうとしようや。ものが、たくさん あります。
やくそくや きまりを まもって、 ういせも 気(き)まかせや。 あんしん 安心して まいごたうてまね。

(1) やくそくや きまりを まもって

やくそくや きまりを まもって 生活^{せいかつ} できて いますか。
 まもれなかったのは どのような ときだったか、考えて みましょう。

町			
			やくそくや きまり
			どうして やくそくや きまりが あるのか

家の^{いえ} 人^{ひと}から



学校

			やくそくや きまり
			どうして やくそくや きまりが あるのか

家の^{いえ} 人^{ひと}から



わたしたちの みの 回り^{まわり}には、
 どのような やくそくや きまりが
 あるでしょう。

● 学校^{がっこう}や 町^{まち}の やくそくや きまりを しらべて、
 どうして やくそくや きまりが あるのかを、
 考え^{かんが}て 書きましよう。



● みんなが つかう ものを、
どのようにつかえば よいかを
書きましょう。



● みんなが つかう ものには、
どのような ものがあるかを
書きましょう。

自分^{じぶん}が つかう けれども、自分の ものでは ありません。
みんなが つかう けれども、だれかの ものでは ありません。
そんな、みんなが つかう ものには どのような ものが ありますか。
また、どのように つかえば よいでしょうか。

黄色いベンチ

ふりつづいて いた 雨が 上がり、日曜日の 今日、
すっかり よい 天気になりました。

たかしくんと てつおくんは、朝から 近くの 公園へ
きのう 作った 紙ひこうきを とばしに 行きました。

「ひくい ところからじゃ、よく とばないよ。」
たかしくんが 言いました。

見ると、おかの 上に 黄色い
ベンチが あります。

「あの ベンチの 上から とばそうよ。」



と、てつおくんが 言ったので、二人は ベンチの
上から、紙ひこうきを とばす ことに しました。

ベンチの 上に のると 高いので、
紙ひこうきは すうっと、気もちよく
とんで いきます。

雨上がりの 公園には、あちらこちらに
水たまりが ありました。

二人の くつは だるだるですが、
そんな ことには 気が つきません。

二人は、ベンチに のって、何度も 何度も、
む中で 紙ひこうきを とばしました。

つかれた 二人は、少し 休む ことに しました。
たかしくんが、

「ぶらんこで あそぼう。」

と 言ったので、二人で ならんで のりました。

二人は、立ったまま、ぶらん ぶらんと こぎました。

あせを かいた 顔に、つめたい 風が 当たって、とても

気もちが いいと 思いました。

そこへ、五さいくらいの 女の子と おばあさんが やって きました。

女の子は、走って きて ベンチに すわり、

「早く 早く。」

と、おばあさんを よびました。

「まあ まあ、こんな どろだらけの

ベンチに すわって、スカートが

どろだらけですよ。」

おばあさんは、女の子を 立たせて、

スカートに ついた どろを、

ふいて あげて います。

たかしくんと

てつおくんは、「はっ」と

して、顔を

見合わせました。



きまり カルタ

どのような きまりが あるのかな。
きまりを しっかりと まもりましょう。

青は すすめ
赤は 止まれの
しんごうき



おうだん歩道
一度 止まって
左右 かくにん



きけんな
ところに
近づかない



どちらかな
ひょうしきを 見て
通りましょう



しっかりと 分けて
ごみ すてよう



みんなを まもる
通学路



ほかに どのような きまりが あるのかを、話し合いました。

学校の 当番や 家の てつだいも、
大切な しごとですね。



一生けんめいに しごとを すると、気もちが ようですね。
はたらく 人の 顔は、かがやいて います。
町で、学校で、家で、みんな だれかの
やくに 立って、がんばって います。

(2) はたらく いのちのよさを かんじて

1年 ねん

わたしの しごと

月 がつ 日 にち 月 日

しごを がんばった ときの 気もち

○ ○ ○ ○ ○

みんなの ために しごとを して、
まわりに えがおを
ふやして いきましょう。

2年

わたしの しごと

月 日 月 日

しごを がんばった ときの 気もち

○ ○ ○ ○ ○

● あなたが している しごとを 書いて、
できたら、○に 色を ぬりましょう。
また、その ときの 気もちを 書きましょう。

わたしの しごと

今週は、わたしが きゅう食の 後に
はいぜん台を ふく 当番です。
きゅう食の 後に、こぼれて いた おかずや
牛にゆうを、しっかりと ふきとりました。
台ふきも、きれいに あらいました。
そこに 先生が いらっしやって、
「きれいに なったね。ありがとう。」
と言って くださいました。
明日も がんばろうと 思いました。



森の ゆづびんやさん

「こんにちは、ゆうびんですよ。」

くまさんは、森の ゆうびんやさんです。

「一けん、一けん、声を かけながら、
手紙や にもつを はいたつします。」

「いつも ありがとうございます。」

くまさんから ゆうびんを

もらうと、森の みんなは、

大よろこびです。

「こんにちは。かぜは なおりましたか。」

「はい、よく なりました。くまさんも、

体に 気をつけて くださいね。」



くまさんは、ゆうびんが ない 日でも、森の みんなと 話を したり、
ほかの 森の 様子をつたえたりして います。森の みんなは、くまさんが
来る ことを、とても 楽しみに して います。

ある、雪の 日の ことです。ゆうびんやさんに、小づつみが とどきました。

やぎじいさんへの ゆうびんです。くまさんは、かばんの 中に、

小づつみを 大切に 入れて 出かけました。

山道を のぼって いくと、

ようやく やぎじいさんの 家が

見えて きました。くまさんは、

やぎじいさんの よろこぶ 顔を

思いうかべながら、いそぎ足で

歩きました。



くまさんは、つぎに はいたつする 家いえに いそぎました。

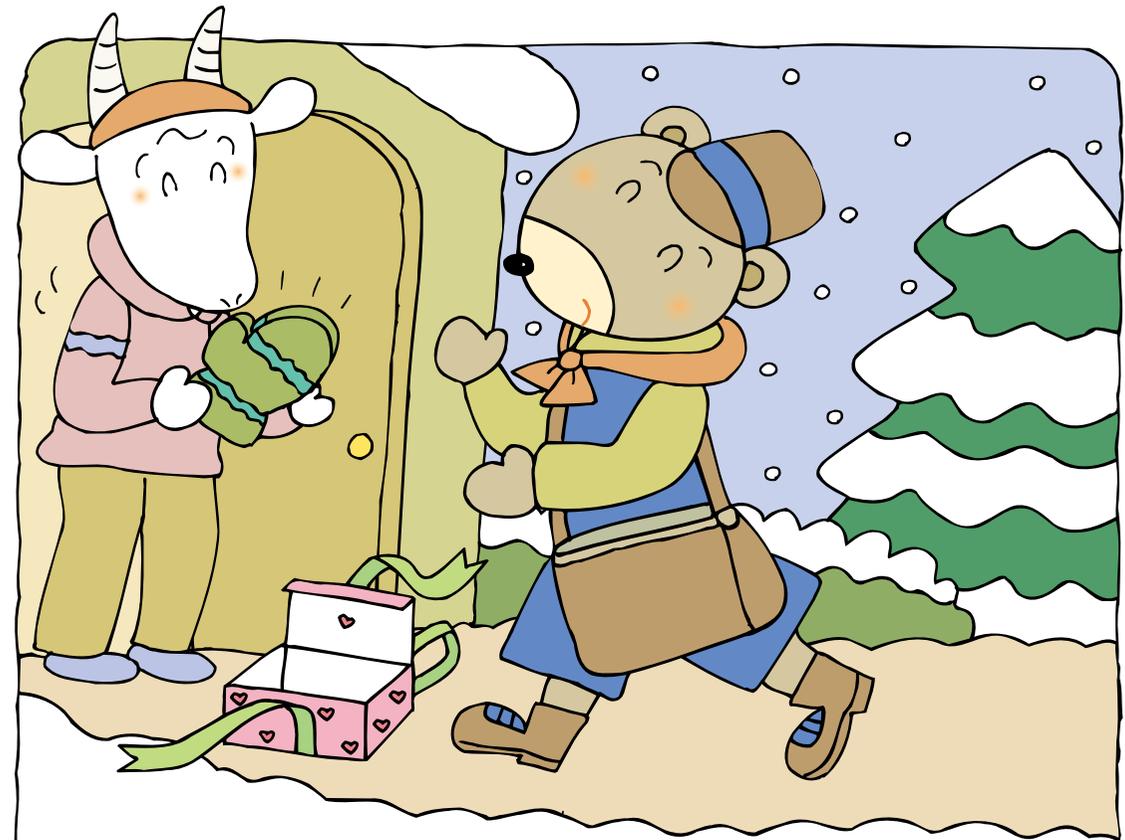
一日いちにちの しごとを おえて、くまさんは 家いえに 帰かえりました。

ポストを 見みると、一通いっとうの 手紙てがみが 入はいって いました。

森もりの ゆうびんやさんへ
いつも 休やすまずに、ゆうびんを
はいたつして くれて、
ありがとうございます。

森もりの みんなは、くまさんが、
大だいすきです。これから、
おしごとを がんばって
ください。

森もりの こりす より



「やぎじいさん、ゆうびんですよ。」

「こんな 雪ゆきの 日ひに、ごくろうさま。
どなたからですか。」

「町まちに すんで いる
おまごさんからですよ。」

くまさんは、かばんから 小こづつみを
ていねいに 出だして、やぎじいさんに
わたしました。

「ぽかぽかの 手てぶくろだ。ありがとう、
くまさん。」

「よかったですね。これで 雪ゆきの 日ひも
安あん心しんですね。」

(3) 家族の やくに 立つ ことを

あなたの ことを
いちばん 大切に 思っ て くれ て いる 家族。

心が ほわっと したよ

日曜日の 夕方、

きゆうに 体が さむく

なつて きた。

ねつを はかつて もらうと

三十八度も あった。

ベッドで ねて いると、

お母さんが おでこの タオルを

とりかえに 来て くれた。

おばあちゃんが 何度も 様子を

見に 来て くれた。

弟が 心配 そうな 様子で

わたしを 見ている。

「みんなが いるから 安心して

ゆっくり ねなさい。」

お母さんが そう 言っ て

ふとんに 手を 当てた。

心が ほわっと あたたかく なった。



● 家の 人から、
あなたへの メッセージを
書いて もらいましょう。

家の 人からの メッセージ

読んで みよう

家族のためにできる ことはないかな

●お母さんは、いそがしそうに 夕はんの したくを して います。

弟は、お母さんに あそんで ほしくて、今にも なき出しそうです。

わたしは、その 様子を 見て、 弟と いっしょに、にわで あそぶ ことに しました。

お母さんは、

「ありがとう、たすかるわ。」

と 言って、にっこりと わらいました。



●お父さんが、しごとから 帰って

きました。お父さんは、つかれた 顔を して いたので、ぼくが、

「お茶を 入れるね。」

と 言うと、にっこり わらいました。

その後、お父さんの かたを たたいて あげると、

「ありがとう。とっても 気持ちがいいよ。」

と 言って、よろこんで くれました。

ぼくも うれしく なって、なんだか おねが なたたかく なりました。

2年

てっだった こと

てっだいを した ときの 気もち



1年

てっだった こと

てっだいを した ときの 気もち

● 家の てっだいを した ときの ことを 思い出して、その ときの 気もちを 書きましよう。

Blank writing area for 1st grade student.

2年

てっだった こと

てっだいを した ときの 気もち



1年

てっだった こと

てっだいを した ときの 気もち

家の 人から

Blank writing area for 1st grade student.

家の 人から

Blank writing area for 1st grade student.

(4) 学校の生活を楽しく

学校では、いろいろな先生たちのお世話になっていきます。
 きゅう食や用むやじむの世話を
 してくださる人たちもいます。

いつもありがとうございます。



きゅう食室



トイレ

ほけん室



教室

校長室

じむ室



パンコン
ルーム

図書室

ほしん室

しゅん室



● 学校で お世話に なって いる 人たちに、
 どのような ことを 思っ
 て いたら いるかを 聞いて、書
 きましょ

Blank writing area with dashed lines for text.



みんなの学校だから、
みんなできれいに
しましょう。



学級をよくするために、
みんなで話し合います。

もっとみんながなかよくなつて、
もっとすてきな学級にするために、
あなたにはどのようなことができるでしょう。



かかりや当番活動が
がんばってありますね。

家の人から

Vertical writing area for home messages.

2年

Large writing area for 2nd grade students.

● 学校や学級のために、
みんなでできることを
書きましょう。

家の人から

Vertical writing area for home messages.

1年

Large writing area for 1st grade students.

● 学校や学級のために、
みんなでできることを
書きましょう。

2年

● すきな きゅう食

● すきな 勉強

● すきな 場所

● 学校で楽しかったことは
どのようなことですか。

● 学校で楽しかったことは
どのようなことですか。



1年

● すきな きゅう食

● すきな 勉強

● すきな 場所

● 学校で楽しかったことは
どのようなことですか。

● 学校で楽しかったことは
どのようなことですか。

あなたは、学校のどのようなくらぶがすきですか。
学校のたからものを見つけて、書きましょ。

(5) ふるさとには 親しみを もって

あなたが 元気に そだつ ことが、あなたの 町の みんなの よろび。

学校がある。
公園がある。
図書館がある。
びょういんがある。
しょうてんがいがある。
あなたの家がある。



ともだちがいる。
せんせいがいる。
おまわりさんや
しょうぼうしさんも
赤ちゃんもいる。
お年よりもいる。

タンポポがさいている 春の 通学路。
水しぶきがまぶしい 真夏の プール。
秋のお気に入りには、
イチヨウなみ木。
冬には みんなで おもちつき。



いつも あいさつを
近所のおじさん。
ときどき すれちがう
ゆうびんはいたつの人。
草むしりをいっしょにした
となりの家のおばさん。
おまつりのとき お世話になった
町内会のおじさん。



町内会のおじさん。

できた 新聞を みんなで 読んで みましよう。

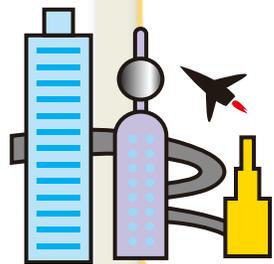
Blank box for writing about recommended places.

●わたしの おすすめの 場所



Blank box for writing about the town's appearance.

●みらいの 町の 様子



あなたの 町を しょうかいする 新聞を 作りましよう。

新聞

発行日 年 月 日 曜日

●町の おまつりや 行事



Blank box for writing about town festivals and events.

●町の 人たちの 様子



Blank box for writing about the appearance of the town's people.

ぎおんまつり

コンコンチキチキ コンチキチン……

ぎおんまつりの ころ、京都きょうとの 町まちには、全国ぜんこくから

大ぜいおおの 人ひとたちが、やって きます。

ぼくが のって いる

ぎおんまつりの ほこ*が、

まがり角かどに 来きた ときです。

ギギギーと いう 音おとが

して、ほこが グーンと

かたむきました。



「あっ、たおれる！」

「かべに ぶつかる！」

見物けんぶつして いる 人たちの 声こゑに、ぼくも

(たおれたら どう しよう。)

と、体からだを かたく しました。

しかし、ほこを 引ひく 人や、まがりやすいように 道みちに 水みずを

まく 人、ほこの 上うへから 「エーンヤラ」と はやす 人たちが、

気きもちを 一つひとに して、ほこは ぶじに 角を まがりました。

「わあ、みごとだ！」

見物して いる 人たちからの はく手しゅと かん声せいを 聞きいて、

ぼくは うれしく なりました。

ぼくの いとこで、九州の 博多に すんで いる かずくんも、
今年 はじめて、ぎおんまつりを 見に 来て います。
かずくんが すんで いる 博多の 町にも、ずっと 前から
つづいて いる、「どんたく」と いう おまつりが あるそうです。

ぼくは、今日の ぎおんまつりの ために、一月くらい 前から
大人と いっしょに、おはやしの れんしゅうを して きました。
はじめは、なかなか おはやしに、かねを 合わせる ことが
できなくて、しかられる ことも ありました。

お父さんに、
「もう、やめたい。」

と 言った ことも ありました。

「お父さんも、よく おじいさんに
しかられながら、れんしゅうした
ものだ。みんな、そう やって、
千年も つづく ぎおんまつりを
まもって きて いるんだよ。」



と はげまして くれたので、ぼくは がんばる ことに したのです。
ぼくは、ほこの 上で、気もちよく コンコンチキチキ
コンチキチン……と かねを たたきながら、おはやしの
れんしゅうを つづけて きて、本当に よかったなど 思いました。

*ほこ……ぎおんまつりで 人が 引く、うつくしい のりもの。